



### WS参加者の感想

- ・ 普段何気なく歩いているが実際に点検実施に参加して、目に付かなかったことが分かり大いに参考になりました。視覚障害者や車椅子を利用して生活する人の身になって考えると身に沁みて痛みが分かった。
- ・ 普段歩いて観察したことが少ないので、道路管理者の一人としては非常によかった。道路の改善点がよく見えた。
- ・ 特に側溝の蓋の悪さが気になった。車椅子の運転の難しさを知った。
- ・ 地域住民の方々の、施設等に対する意識、関心が強い。
- ・ 車社会とはいうものの歩いている人、障害をもっている人が、日常外出しにくい状況を感じました。
- ・ 施設設計に当たり、障害者の立場になって設計に反映する必要がある。
- ・ 机上の空論部分がかかなりあったのではないかと反省。
- ・ 事故等の恐れがあるかもっと健全者も障害者の立場となれる様疑似体験装置などを利用してやったら どうか。時間はかかるかもしれないが ...。
- ・ 全体的に時間がなく、もうすこしたっぷり、ゆっくり点検をしたかった。車椅子で道路を通ってみて、危ないところがたくさんあるんだなあと思った。
- ・ 数センチの段差が越えられない壁であるということ。



午後からのワークショップ(まち歩き調査のまとめ風景)

- ◎事業の成果 ワークショップで出された意見は、その後の土木事業等に活用した。また、県以外の主体が管理している施設については、管理主体へワークショップの結果を提供した結果、独自に施設改善を実施した施設もあった。

### ポイント！

点検の際は、メジャーなどの小道具を使用すると、より効果的である。



### ポイント！

県管理ではない施設も含まれている場合には、それらの施設に点検結果をきちんとフィードバックする。

### 村上市バリアフリー点検ワークショップのポイント

- 住民と行政職員が一緒にまちを歩き、バリアフリーの状況を点検した。
- 同じ場で、官民双方の視点でのチェック・意見交換できたことで、多様な意見が得られた。
- ワークショップの結果は、県管理以外の施設にも提供した結果、独自に改修を行う施設もあった。